

西暦	和暦	支配者	出来事
600			このころ、土器を使って、天草各地で製塩が行われる。
645	大化	1	大化の改新
710	和銅	3	平城京遷都
712	和銅	5	古事記に両児島・天両屋の名がある
744	天平	16	大雷雨・地震で多くの死者が出る。八代、天草、葦北三郡の官舎並びに田290余町、民家470余区、人1520余人水に漂没、山崩れ280余カ所、圧死者40余人等の被害を受ける(続日本記)
778	宝亀	9	遣唐使大伴宿弥一行天草郡西仲島に漂着する
794	延暦	13	平安京遷都
873	貞観	15	渤海船が天草に漂着する
885	仁和	1	新羅船が天草に漂着する
886	仁和	2	新羅国使徐善行ら天草郡に来航したが不調。和名抄の天草郷に波太、天草、志岐、恵家、高屋5郷あり
935	承平	5	天草郡に「波太、天草、志記、恵家、高屋」の五つの郷名が記される
1192	建久	3	鎌倉幕府開府
1205	元久	2	志岐光弘鎌倉幕府より郡内6カ浦の地頭に任ぜられる
1220	承久	2	※この頃河内浦に天草氏、大矢野氏、宮地氏(天草氏の分家筋)出現
1233	天福	1	天草種有、本砥島地頭職を播磨局にゆずる
1260	文応	1	播磨局、亀川に来迎寺を建てる
1274	文永	11	文永・弘安の役に大矢野、天草、志岐氏ら出陣(～1281年)
1281	弘安	4	弘安の役、大矢野種保・種村ら参戦し活躍する
1300	正安	2	※この頃天草氏志岐氏によって滅ぼされる
1313	正和	2	本砥島の地頭職、志岐景弘に与えられる

西暦	和暦	支配者	出来事
1329	元徳 1		志岐弘円と宮地村地頭仏意の争い(～1330年)
1333	正慶 2		鎌倉幕府滅亡
1334	-		建武の新政。南北朝対立
1337	-		山鹿(志岐)隆弘は北朝方、河内浦(天草)三郎は南朝方に立ち争う
1338	暦応 1		足利尊氏、室町幕府開く
1340		3	※この頃上津浦氏登場
1348		4	※この頃河内浦氏天草氏を称し出現
1350	観応 1		山鹿(志岐)隆弘、足利直冬の求めに応じ馳せ参ず
1353		2	志岐隆弘、肥後詫磨城・筑後飯盛城攻めに手柄をたてる
1358		3	倉岳町棚底(大権寺)に明俊塔できる
1365		4	天草種国、玉名広福寺に誓紙を納める
1368	応安 1		足利義満征夷大將軍
1370		3	島子・志加木を詫磨氏が支配する
1384	至徳 1		志岐又次郎、上津浦上総介・長嶋伊豆守等犬追物に参加する
1385		2	今川仲秋上津浦を攻め、又志岐城を攻め落とす
1399		6	志岐高遠、菊池武朝から本戸を与えられる
1404		11	天草市亀川古寺に妙永禪尼塔ができる
1442	嘉吉 2		竜ヶ岳大道東浦に心田了公・座元禪師塔ができる
1450	宝徳 2		※この頃栖本氏、久玉氏が出現
1467	応仁 1		応仁の乱
1487	長享 1		栖本町河内小ヶ倉に磨崖仏つくられる

西暦		和暦		支配者	出来事	
1501	辛酉	文亀	1	┆	天草一揆(志岐・上津浦・宮地・天草・長嶋・大矢野・栖本・久玉)志岐領蒲牟田で話し合う(天草一揆談合覚書)	
1502	壬戌		2			
1503	癸亥		3			
1504	甲子	永正	1			
1505	乙丑		2			本砦は志岐氏、島子は上津浦氏に与えられる 河浦町益田観音寺、板碑つくられる
1506	丙寅		3			
1507	丁卯		4			
1508	戊辰		5			
1509	己巳		6			
1510	庚午		7			
1511	辛未		8			
1512	壬申		9			
1513	癸酉		10			
1514	甲戌		11			
1515	乙亥		12			
1516	丙子		13			
1517	丁丑		14			
1518	戊寅		15			
1519	己卯		16			
1520	庚辰		17			
1521	辛巳	大永	1			
1522	壬午		2			
1523	癸未		3			
1524	甲申		4			
1525	乙酉		5			
1526	丙戌		6			
1527	丁亥		7			
1528	戊子	享祿	1			
1529	己丑	享祿	2			
1530	庚寅	享祿	3		天草氏、志岐氏を破り本戸城を築く	
1531	辛卯	享祿	4		天草市船の尾・尾越板碑つくられる	
1532	壬辰	天文	1		上津浦治種、相良氏の助けにより天草・志岐・栖本・大矢野・長嶋連合軍を破る	
1533	癸巳	天文	2		天草尚種を中心に、長島、志岐、栖本、大矢野合同で上津浦治種を攻める	
1534	甲午	天文	3			
1535	乙未	天文	4			
1536	丙申	天文	5			
1537	丁酉	天文	6			
1538	戊戌	天文	7			
1539	己亥	天文	8		楠浦立浦板碑作られる	
1540	庚子	天文	9			
1541	辛丑	天文	10			
1542	壬寅	天文	11			
1543	癸卯	天文	12		ポルトガル船、種子島に漂着、鉄砲伝来	
1544	甲辰	天文	13			

西暦		和暦		支配者	出来事	
1545	乙巳	天文	14	天草五人衆時代	大矢野に唐船着く	
1546	丙午	天文	15			
1547	丁未	天文	16			
1548	戊申	天文	17			
1549	己酉	天文	18			ザビエルら宣教師が鹿児島に上陸、日本に初めてキリスト教を伝える
1550	庚戌	天文	19			
1551	辛亥	天文	20			天草・上津浦・大矢野氏連合して栖本を攻める 天草弾正左衛門尉行盛、大友義鎮に降伏する
1552	壬子	天文	21			
1553	癸丑	天文	22			
1554	甲寅	天文	23			相良氏天草を狙い、長島氏を出水へ追い出す-天草五人衆時代へ
1555	乙卯	弘治	1			
1556	丙辰	弘治	2			上津浦氏、栖本を攻める 志岐氏に菊池氏より、玉名郡石貫ほか50町が与えられる
1557	丁巳	弘治	3			
1558	戊午	永禄	1			天草より上津浦攻め、上津浦より棚底攻め、島子より下津浦を攻める この戦いに鉄砲が使われる
1559	己未	永禄	2			
1560	庚申	永禄	3			栖本・上津浦戦-鉄砲が使われる
1561	辛酉	永禄	4			
1562	壬戌	永禄	5			
1563	癸亥	永禄	6			
1564	甲子	永禄	7			小島子・下砥岐、天草氏より上津浦氏に返還する
1565	乙丑	永禄	8			天草・大矢野・上津浦三氏で志柿を攻める・志岐・栖本・有馬・和泉合 同で島子を攻める 長島城主天草越前守、島津義虎に滅ぼされる
1566	丙寅	永禄	9			アルメイダが志岐にキリスト教を伝える 志岐鎮経(麟泉)洗礼を受け志岐に教会堂を建てる
1567	丁卯	永禄	10			
1568	戊辰	永禄	11			トルレスら全日本の宣教師を招集して志岐宗教会議開かれる
1569	己巳	永禄	12			アルメイダ、河内浦にキリスト教布教
1570	庚午	元亀	1			志岐宗教会議でカブラル日本布教長となる トルレス神父志岐で昇天する 志岐鎮経棄教

西暦		和暦		支配者	出来事
1571	辛未	元亀	2		天草氏、嫡子や多くの家臣と共に洗礼を受く。これより河内浦はキリシタン伝導の拠点となる
1572	壬申	元亀	3		
1573	癸酉	天正	1		室町幕府滅亡
1574	甲戌	天正	2		このころ天草義尚、島津義虎と不仲になる
1575	乙亥	天正	3		
1576	丙子	天正	4		天草鎮尚、島津氏と和睦
1577	丁丑	天正	5		
1578	戊寅	天正	6		
1579	己卯	天正	7		天草鎮尚、島津氏の麾下に属し、尾張守に任ぜられる
1580	庚辰	天正	8		
1581	辛巳	天正	9		志岐氏、竜造寺隆信に服属 天草刑部大輔、相良義陽に従い響原合戦(豊野村)で戦死する
1582	壬午	天正	10		天草鎮尚没 大矢野種基、島津義久に降る 遺欧少年使節長崎を出航する 本能寺の変
1583	癸未	天正	11		アルメイダ、河内浦にて没
1584	甲申	天正	12		沖田暁の戦い(志岐・上津浦・栖本・天草・島津に従い島原半島に出兵 竜造寺軍と戦う)
1585	乙酉	天正	13		
1586	丙戌	天正	14		
1587	丁亥	天正	15		天草久種等天草五人衆、島津に従い大友氏と戦う 天草五人衆秋月で秀吉に降伏し、佐々成政の与力となる 秀吉キリシタン禁令を出す 禁教令後、天草久種自領内でキリシタン保護・大矢野種基、一族家臣 2731人と共に入信
1588	戊子	天正	16		佐々成政失脚(切腹)し天草五人衆小西行長の支配下に置かれる 鈴木重成生まれる ノビシアド、河内浦に設置さる。遺欧4少年ノビシアド入所 河内浦で疫病大流行 秀吉が大矢野種基に小西行長合宿を命じ、1755石をあてがう 天草久種、小西行長より6785石をあてがわれる
1589	己丑	天正	17		フロイスが本戸に滞在する 行長天草諸豪に宇土城普請役を命ずる 天草合戦始・木山弾正加藤清正に討たれる。志岐城陥落。本渡城陥落、 天草伊豆の守討死・天草は完全に小西行長領となる 栖本氏キリスト教入信 河内浦のノビシアドが大村に移される

西暦		和暦		支配者	出来事
1590	庚寅	天正	18	小西行長	上津浦氏入信 遣欧少年使節長崎に帰還
1591	辛卯	天正	19		イエズス会派宣教師養成の神学校(コレジオ)天草学林が建てられる 文禄の役、天草諸豪も行長に従い渡海 遣欧少年使節、聚楽第で秀吉に謁見 行長と天草久種の和解が室の津で成立
1592	壬辰	文禄	1		文禄の役 コレジオにおいて、平家物語やイソップ物語、羅菊日辞典など29種の本(ゲーテンベルグ印刷機)を出版 梅北一揆起こり、栖本親高死す 寺沢広高、長崎奉行に任命さる
1593	癸巳	文禄	2		河内浦にあったコレジオが一時河内浦・大江・久玉に分散される
1594	甲午	文禄	3		
1595	乙未	文禄	4		寺澤広高、洗礼を受ける
1596	丙申	慶長	1		
1597	丁酉	慶長	2		コレジオ、長崎に移る 慶長の役・大矢野種基父子、栖本道隆順天で戦死 寺澤広高棄教、迫害者へ
1598	戊戌	慶長	3		豊臣秀吉没
1599	己亥	慶長	4		
1600	庚子	慶長	5	加藤清正？	関が原の戦い・小西行長、京都で処刑される 天草久種、小早川秀秋に属し備前に移る
1601	辛丑	慶長	6		家康、天草郡を唐津城主寺沢広高に与える
1602	壬寅	慶長	7		
1603	癸卯	慶長	8		家康、征夷大將軍就任(江戸幕府開府) 広高、富岡に新城を築き番代を置く(広高の甥寺沢熊之助) 士卒・約100人 郡内3ヶ所(河内浦・本戸・栖本)に郡代を配置する 加藤清正、隈本築城に着手
1604	甲辰	慶長	9		一里塚の制定 一町60間(約108m) 一里36間(約388m) 長崎にキリスト教が広まり、同地の仏寺は廃絶する

西暦		和暦	支配者	出来事
1605	乙巳	慶長	10	家康引退(就任期間2年2ヶ月)し、徳川秀忠将軍となる(但し家康院政を敷く) 富岡城竣工 広高、幕府の意を受け、キリシタン弾圧始める 広高、幕府の意を慮り、番代に命じて、天草郡内のキリスト教会を破壊し、禁教を強要する その結果、天草では司教館は志岐、上津浦のみ残存し、パードレ5人、イルマン2人在住するのみ
1606	丙午	慶長	11	幕府、諸大名の妻子を江戸に留置する
1607	丁未	慶長	12	清正の熊本城竣工 隈本を熊本と改称する
1608	戊申	慶長	13	寺沢広高、染岳に観音堂を建立する
1609	己酉	慶長	14	八代で、キリシタン4名(内3人は家族)が殺される 幕府、500石積以上船舶建造を禁じる
1610	庚戌	慶長	15	
1611	辛亥	慶長	16	加藤清正没、50歳 忠広(11歳)相続
1612	壬子	慶長	17	島原城主有馬晴信、岡本大八事件に関して、甲斐(紀州の異説有)に流され、後切腹を命じられる 但し、晴信はキリシタンのため自死はできず、家来に首を討たせる 後を直純が継ぐ
1613	癸丑	慶長	18	家康、全国にキリスト教禁令を発す 幕府、切支丹宗門取締令発布。庶民に仏教に帰依させ、宣教師国外追放
1614	甲寅	慶長	19	島原・天草はじめ全国でキリシタン弾圧が始まる アダム荒川処刑さる 大坂冬の陣
1615	乙卯	元和	1	大坂夏の陣、豊臣氏滅ぶ 細川忠興の次子興秋、豊臣滅亡に際し天草に逃れ隠棲する・御領組大庄屋長岡家の祖 幕府、一国一城制を布く・ただし、富岡城は長崎備えのため存続する
1616	丙辰	元和	2	徳川家康歿(75) 有馬直純、日向延岡藩に願い出て転封となり、松倉重政が日野江城主となる 寺沢広高 全領地を再検地する
1617	丁巳	元和	3	大坂方の遺臣上田助右衛門、高浜に隠棲。上田庄屋家の祖
1618	戊午	元和	4	松倉重政、島原城の築城を開始する
1619	己未	元和	5	八代地震・麦島城破壊
1620	庚申	元和	6	細川忠利家督相続

唐津藩主・寺沢広高・堅高

西暦		和暦		支配者	出来事
1621	辛酉	元和	7	山崎家治	三宅藤兵衛、富岡城番代となる
1622	壬戌	元和	8		徳川家光、将軍就任 秀忠の将軍期間18年3ヶ月
1623	癸亥	元和	9		
1624	甲子	寛永	1		島原城完工
1625	乙丑	寛永	2		熊本地震・熊本城被害 島原藩主、松倉重政、キリシタン弾圧 寺澤広高隠居、堅高相続
1626	丙寅	寛永	3		
1627	丁卯	寛永	4		キリシタン検挙・弾圧続く
1628	戊辰	寛永	5		
1629	己巳	寛永	6		長崎で絵踏みが始まる キリシタン弾圧・長崎雲仙地獄、天草も
1630	庚午	寛永	7		島原藩主松倉重政歿・勝家継ぐ
1631	辛未	寛永	8		
1632	壬申	寛永	9		徳川秀忠没 加藤忠広改易配流・出羽庄内藩へ預かりとなる 細川忠利入熊 絵踏が紙から青銅板へ
1633	癸酉	寛永	10		第1回鎖国令(海外渡航禁止) 天正4少年使節の一人、中浦ジュリアン吊倒しの刑により殉教 寺澤広高歿 堅高跡を継ぐ
1634	甲戌	寛永	11		この年より天候不順による凶作が続く 幕府、酒造高の半減を命 細川藩、年貢の減免を命ず
1635	乙亥	寛永	12		大火や地震、大風が相次ぎ、7月には肥後だけで34,000戸の民家が倒壊
1636	丙子	寛永	13		春は長雨、夏は干天の凶作 幕府、鎖国令強化
1637	丁丑	寛永	14	阿蘇山噴火 <b>天草・島原一揆</b> 起きる	
1638	戊寅	寛永	15	原城落城・乱終結 富岡冬切りで76人が処刑される 寺澤堅高、天草を没収され、山崎家治所領となる 島原藩主松倉勝家改易・斬首刑に処せられる 一揆の斬首級を天草・島原・長崎の三カ所に埋葬、首塚と称する	
1639	己卯	寛永	16		



西暦		和暦		支配者	出来事
1640	庚辰	寛永	17	代官・鈴木重成・重辰	
1641	辛巳	寛永	18		鎖国体制完成 山崎家治、讃岐丸亀へ移封、天領となり代官鈴木重成着任 熊本藩に天草在番を命じられる 地役人を採用し、遠見番任命・富岡、大江崎、魚貫崎に遠見番所、烽火場設置 郡中行政区割り・10組86カ村・1町。大庄屋、庄屋を配置
1642	壬午	寛永	19		幕府、九州諸藩に天草への移民命じる 熊本藩より170人、馬20匹、薩摩より30戸155人、馬49頭入島 重成の兄正三、来島・重成に協力し、各寺の建立等に励む 天草郡で踏絵始まる
1643	癸未	寛永	20		肥後地方で地震
1644	甲申	正保	1		寺請け制度始まり、寺請制度が設けられる
1645	乙酉	正保	2		九州・中国地方大風・被害甚大、秋は気候不順で凶作 宮本武蔵歿(64歳) 重成、定浦制定める(弁指制)-七浦
1646	丙戌	正保	3		
1647	丁亥	正保	4		重成、富岡の首塚に建碑、主祭供養 寺澤堅高発狂、自殺 郡中に移住民500人-農具は公儀持、家居はその村提供
1648	戊子	慶安	1		東向寺、国照寺建立 重成、寺社領総高300石の証状発す
1649	己丑	慶安	2		慶安の御触書 鈴木正三、天草を離れる
1650	庚寅	慶安	3		大風雨。潮害により、民家流失、田損損害甚だ多し。 肥後地震。
1651	辛卯	慶安	4		将軍家光歿(48歳) 新休村東向寺竣工 崎津八幡宮創立 由井正雪の乱
1652	壬辰	承応	1		
1653	癸巳	承応	2		鈴木重成、江戸で病没(66歳)
1654	甲午	承応	3		郡中に初めて切支丹禁制の高札建てられる
1655	乙未	明暦	1		二代代官鈴木重辰着任 天草へ初めて流人送られる
1656	丙申	明暦	2		

西暦		和暦		支配者	出来事
1657	丁酉	明暦	3	戸田忠昌	富岡、町となる 江戸振袖大火(江戸城炎上・延焼800余町、死者10万7千人)
1658	戊戌	万治	1		大雨洪水・凶作。
1659	己亥	万治	2		天草の人口16,000人、乱時の人口に回復 万治高撫検地(石高見直し・2万1千石) 浦方運上改定・郡中20ヶ浦へ舸子299人配置 福連木官山の切り出し始まる
1660	庚子	万治	3		豪雨、その後大旱魃 高浜荒尾岳に烽火場設置
1661	辛丑	寛文	1		大旱魃・稲苗植付困難 肥後大地震 幕府、諸大名に百姓五人組制を命ず
1662	壬寅	寛文	2		西国諸国大地震-9月には天草でも 大雨洪水 長崎で疱瘡流行、死者3,300余人
1663	癸卯	寛文	3		大旱魃・疫病大流行・凶作 富岡町三丁目大火事 温泉岳噴火
1664	甲辰	寛文	4		鈴木重辰京都代官へ 天草は私領となり三河国田原城主戸田忠昌領となる
1665	乙巳	寛文	5		肥後地方大地震
1666	丙午	寛文	6		天草郡中郷村、五人組張始まる
1667	丁未	寛文	7		天草郡中に高札が掲示される
1668	戊申	寛文	8		
1669	己酉	寛文	9	肥後大洪水、一転旱魃・凶作	
1670	庚戌	寛文	10	戸田忠昌寺社奉行に任命され、天草は再び天領となる 忠昌富岡城を三の丸のみを残し破城する(戸田の破城)	
1671	辛亥	寛文	11	鈴木重辰、京都にて歿(64歳) 小川正辰代官 細川藩再び天草警衛	
1672	壬子	寛文	12	砥岐組のみ、島原城主松平忠房の預かり所となる(延宝2年までの3年間)	

天

西暦		和暦		支配者	出来事
1673	癸丑	延宝	1	領 専 任 代 官	長崎奉公 山方役(15人)新設、富岡・崎津・亀川に配置する 福連木御用林刈り出し 郡中の牛馬4千匹も斃死
1674	甲寅	延宝	2		
1675	乙卯	延宝	3		阿蘇山噴火 飢饉・大雨
1676	丙辰	延宝	4		大雨洪水・田凶作 小宮地新田、下浦新田の干拓成就
1677	丁巳	延宝	5		
1678	戊午	延宝	6		桜島噴火 九州地方暴風雨・天草も大被害 富岡町大火
1679	己未	延宝	7		
1680	庚申	延宝	8		大風・大飢饉
1681	辛酉	天和	1		この頃、人口34,357人、3893軒
1682	壬戌	天和	2		綱吉、武家諸法度15ヶ条を発す
1683	癸亥	天和	3		
1684	甲子	貞享	1		代官更迭・小川藤左衛門に代わり、永田七郎左衛門 永田代官病没・服部重昌
1685	乙丑	貞享	2		将軍綱吉、生類憐れみの令 崎津鳥居建立(現存するものでは天草最古) 八代郡五家荘、天草代官の支配所となる
1686	丙寅	貞享	3		
1687	丁卯	貞享	4		
1688	戊辰	元禄	1		大矢野組、14年間の島原預かりを解かれ天草代官支配下に復帰
1689	己巳	元禄	2		
1690	庚午	元禄	3		染岳観音堂建設着手 服部代官病没
1691	辛未	元禄	4		代官、今井兼昌
1692	壬申	元禄	5	高野山僧侶間の派閥争いで天草に140人が流される 町山口村、諏訪宮竣工 天草の人口4万(8)千人 内キリシタン類族1万2千人(村々明細帳)	
1693	癸酉	元禄	6	郡中大雪-7,80cm積もる 富岡町大火 山方役人、2名増員し計17人	

西暦		和暦		支配者	出来事
1694	甲戌	元禄	7	天 領 専 任 代 官	郡中大雪、84cm積もる 鉄砲改め・郡中に739挺
1695	乙亥	元禄	8		大地震 郡中見取り年貢始まる
1696	丙子	元禄	9		
1697	丁丑	元禄	10		豪雨洪水相次ぐ・さらに旱魃・虫害で凶作
1698	戊寅	元禄	11		長崎大火・延焼22町、2024戸焼失、9832人罹災 魚貫崎に唐船漂着 福連木御用林拡大
1699	己卯	元禄	12		大雨洪水 前天草領主、戸田忠昌歿(68歳)
1700	庚辰	元禄	13		高野山の配流僧ら赦免
1701	辛巳	元禄	14		山木興惣左衛門代官 赤穂事件 槍柄木7千本刈り出し 富岡町の家数332軒(内農家130軒・漁家120軒・商家60軒・その他22軒)
1702	壬午	元禄	15		江戸無宿55人天草へ配流 天草の甘藷栽培、このころ普及(推定) 赤穂浪士討ち入り 竹村惣左衛門代官 御領村、芳證寺失火
1703	癸未	元禄	16		小野朝之丞代官 凶作・飢饉 江戸無宿流人、45人村々預け
1704	甲申	宝永	1		竹村嘉茂代官
1705	乙酉	宝永	2		砥岐組7カ村の男女144人薩州伊佐郡菱刈に移住
1706	丙戌	宝永	3		亀川村に疱瘡流行
1707	丁亥	宝永	4		富岡大火 大地震 遠見番所増設 富士山噴火・富士噴火の救済のため、上納金割り当て(高100石につき金2両づつ)課せられる
1708	戊子	宝永	5		

西暦		和暦	支配者	出来事
1709	己丑	宝永 6	天領 専任 代官	阿蘇山噴火・新池出現 天草郡中疱瘡病人手当方を制定 将軍綱吉歿・家宣
1710	庚寅	宝永 7		江戸流人40人、大赦により帰国
1711	辛卯	正徳 1		天草の人口52,785人
1712	壬辰	正徳 2		天草陶石発見 将軍家宣歿・家継 富岡大火
1713	癸巳	正徳 3		郡中凶作 大庄屋制廃止
1714	甲午	正徳 4		天草郡は、日田代官室七郎左衛門重福の兼任支配となる(委任統治) 天草の大庄屋、特例として復活 凶作にて大飢饉
1715	乙未	正徳 5		富岡に蔵元設置
1716	丙申	享保 1		将軍家継歿・吉宗 享保の改革
1717	丁酉	享保 2		大旱魃 唐津浪人広田和平、本村に移り住み天草土人形の制作を始める 崎津、牛深の二カ所に遠見番所を増設 明德寺山門建立
1718	戊戌	享保 3		天草全島人口65,000人
1719	己亥	享保 4		
1720	庚子	享保 5		富岡でフカ狩り始まる 天草は、島原城主松平主殿頭忠雄の預地となる 在番の肥後兵引揚げ 西目筋(天草灘側)の要所に異国船対策の烽火場を整備 始めて <b>定免制</b> となる 郡中総高21,645石7升7合
1721	辛丑	享保 6		全国的に人別改め実施、日本の総人口2607万人・天草は6万5千余人
1722	壬寅	享保 7		島原城主松平忠雄、天草初巡視
1723	癸卯	享保 8	地震相次ぐ	
1724	甲辰	享保 9	大旱魃の後、豪雨洪水、大風・荒地でき 江戸より流人48人が預けられる	

島原

西暦		和暦		支配者	出来事	
1725	乙巳	享保	10	原・松平氏預かり	大雨洪水・大地震・虫害-不作 郡中石高2万千石 定免延期・1分6厘増しとなる	
1726	丙午	享保	11		虫害大不作	
1727	丁未	享保	12		享保の大凶作(旱魃・大風・虫害・洪水)による大飢饉	
1728	戊申	享保	13		御料所一統加免(1分2厘増) 15年間の定免	
1729	己酉	享保	14		強風相次ぐ 郡中大飢饉、餓死者400人余(異説有)	
1730	庚戌	享保	15		虫害・干ばつで凶作・郡民困窮 このころ甘藷栽培盛んになる	
1731	辛亥	享保	16		狂犬(犬はしか)流行・噛まれたら過半は100から200日に死亡	
1732	壬子	享保	17		凶作続き、幕府は島原藩に命じ、給米千石を貸す(享保の大飢饉) 天草各地とも長雨後の日照りが続き、虫害による凶作 島原藩より公儀救飢米1000石の貸下げを受ける	
1733	癸丑	享保	18		島原・松平氏預かり	西南諸国の餓死者16万9900人 (徳川実記・96万9900人と表記) 大風、大浪で、富岡で大被害 この秋大豊作
1734	甲寅	享保	19		昨年の豊作で、米価値下がり	
1735	乙卯	享保	20		青木昆陽、甘藷考一卷を著し、幕府に上呈	
1736	丙辰	元文	1		島原藩主松平忠雄歿・忠侃就封	
1737	丁巳	元文	2		島原城主松平忠侃、天草初巡視 供揃い400余人、人足512人、馬186頭、曳舟220艘 上津浦より富岡へ	
1738	戊午	元文	3		島原藩主松平忠侃歿・忠刻就封	
1739	己未	元文	4			
1740	庚申	元文	5		島原城主松平忠刻、天草初巡視	
1741	辛酉	寛保	1			
1742	壬戌	寛保	2	「御定書百箇条」制定・天草が流人島と規定される		

西暦	和暦	支配者	出来事
1743	癸亥 寛保 3	島原藩主戸田氏預かり	江間新五右衛門、地役人となり、山方役を勤める 以後7ヵ年定免延期・免3ツ8分7厘(税率38.7%)
1744	甲子 延享 1		
1745	乙丑 延享 2		雨天続きで稲大不作・品質悪く上納米に適さないということで、2410石の 拝借を公儀に上申するも却下され、石代銀納せよと命じられる 将軍吉宗引退・家重就任
1746	丙寅 延享 3		将軍代替わり西国巡見使下向。 天草の人口74,657人・家数8,288軒・総高21,282石5斗8升3合 牛708頭・馬3,937頭 船1,342艘 郡中鉄砲数・546丁・他に獵師筒21丁、寺領鉄砲5丁、合計572丁 〃 寺数・禅宗14、浄土宗7、真言宗1、真宗29、外に庵47件 〃 宮数・266軒、
1747	丁卯 延享 4		肥後細川藩主細川宗孝が登城の途中、乱心した板倉勝該に切りかかれ れ死去 弟主馬(改名・重賢)が相続する
1748	戊辰 寛延 1		大風雨・高潮にて、倒家、倒木、田浸水して被害甚大。飢米1986石4斗 公儀より拝借。富岡でも大被害
1749	己巳 寛延 2		鈴木神社石造り社殿新建
1750	庚午 寛延 3		島原城主、下野国宇都宮城主戸田忠盈と国替え 天草は戸田氏預かりと なる
1751	辛未 宝暦 1		
1752	壬申 宝暦 2		
1753	癸酉 宝暦 3		
1754	甲戌 宝暦 4		高浜村庄屋上田勘右衛門、同村鬢水山で砥石の採掘を始める
1755	乙亥 宝暦 5		熊本城主細川重賢、藩校時習館を建設
1756	丙子 宝暦 6		
1757	丁丑 宝暦 7		
1758	戊寅 宝暦 8		
1759	己卯 宝暦 9		幕府、初めて西国郡代を置く 諏訪神社山口村より現在地に移転、大祭に農具市開催(本渡の市の起 源)
1760	庚辰 宝暦 10	中村頤亭、御領に正倫社(私塾)を開く	
1761	辛巳 宝暦 11	全郡人口、89,982人	
1762	壬午 宝暦 12	上田伝五右衛門、鷹巣山で陶石を採掘し、皿山窯業所を開く	
1763	癸未 宝暦 13		
1764	甲申 明和 1		

西暦		和暦		支配者	出来事
1765	乙酉	明和	2	日田郡代兼帯支配	楠浦前潟新田一応竣工 水ノ平焼起こる
1766	丙戌	明和	3		楠浦村前潟新田、牛深村万屋助七に譲渡
1767	丁亥	明和	4		田沼意次側用人
1768	戊子	明和	5		島原藩に替わり揖斐十太夫政復(西国郡代)天草の統治者に任命さる ※揖斐郡代8,500石の租税を年々増加し12,000石とする 御領村中村頤亭(明和4年歿)に代わり、弟子の中村天錫正倫舎の後を継ぎ開塾
1769	己丑	明和	6		肥後川尻大地震。熊本大地震 富岡町疱瘡流行
1770	庚寅	明和	7		郡中地役人、25名を17名に切り詰め 大庄屋に苗字御免 大增税(総税米8503石が12,268石となる) 大雨洪水・ことに高浜、大江、今富各村で被害大
1771	辛卯	明和	8		平賀源内、高浜陶土を海外輸出陶器を製造することを、幕府に建議 出米騒動起こる
1772	壬辰	安永	1		疱瘡流行、本戸馬場村59人隔離 田沼意次老中
1773	癸巳	安永	2		疱瘡本戸馬場村新たに9人罹患
1774	甲午	安永	3		戸田氏と松平氏国替え、松平氏島原城主復帰 天草は西国筋郡代蔭藤氏の兼帯続く 杉田玄白解体新書
1775	乙未	安永	4		町山口村で大火、民家86軒焼失
1776	丙申	安永	5		アメリカ合衆国独立宣言
1777	丁酉	安永	6		二度の大風、大雨・被害大 凶作
1778	戊戌	安永	7	川尻大地震。肥後大風雨 大島子で切支丹発覚、4名捕らえられる 上田源作(宜珍)庄屋見習いとなる	
1779	己亥	安永	8	桜島大噴火。死者1万6千余人 益田村疱瘡流行	
1780	庚子	安永	9		



西暦		和暦		支配者	出来事
1781	辛丑	天明	1	島原城主松平氏預かり	蔵元騒動起こる それにより、蔵元を郡会所と改称し、会所詰として大庄屋より二人宛て、一ヶ月交代に勤番する
1782	壬寅	天明	2		数度に渡り、大風、大雨・さらに虫害で大凶作(天明の大飢饉)
1783	癸卯	天明	3		天草、島原城主松平忠恕の預かり地となる 浅間山大噴火・災害は40里に及び、死者2万余人 町山口村に疱瘡流行、罹患43人 この年も気候不順で大凶作 下浦石工元祖、松室五郎左衛門歿
1784	甲辰	天明	4		関東、奥羽に餓死者多数 天草の人口10万人を突破する
1785	乙巳	天明	5		今年も気候不順で凶作 楠浦町山口村など各村に疱瘡流行
1786	丙午	天明	6		※天明年間には郡内の田畑の3分の2は銀主2百数十人の所有となる
1787	丁未	天明	7		郡中穀類払底・困窮 寛政の改革 牛深村銀主万屋助七外4軒の家屋打ち壊し、債権書類などを焼却
1788	戊申	天明	8		京都大火、18万3千戸焼失・皇居も炎上 本村鈴木社を石造りから茅葺社殿拝殿に改建 飢饉対策の貯穀(米、雑穀、干し甘藷)制度確立
1789	己酉	寛政	1		瑞岡珍牛東向寺13世住職 富岡で大火、類焼500軒 楠浦村舟津で大火、40軒焼失 天草郡小前百姓3人、老中松平定信に箴訴 上田宜珍、庄屋となる
1790	庚戌	寛政	2		天草人口過剰のため、江戸勘定所より関東移民をすすめられるも希望者なし
1791	辛亥	寛政	3		
1792	壬子	寛政	4		<b>雲仙眉山崩壊</b> 、天草では18カ村で死者343人、怪我707人、死牛馬109頭、田畑損壊65町の被害をうける(島原大変肥後迷惑) 大風雨により、田、畑作収穫半減
1793	癸丑	寛政	5		米価高騰、郡中困窮 西目筋一町田・大江組百姓など100人余、都呂々村木場へ集結
1794	甲寅	寛政	6		出米願いにつき一町田組今村・本戸組戸宇土村にて百姓騒ぎ立て 富岡で疱瘡流行・8百余人病みつき、80人ほど死亡。更に町中残らず患 い、志岐にまで拡大 天草の人口、11万2千余人

西暦		和暦		支配者	出来事
1795	乙卯	寛政	7	島原主松平氏預かり	西目筋百姓、拝借夫食米年賦返済方願い方として都呂々村に集結 雲仙岳地変の三周忌に当たり、富岡に万霊塔建立
1796	丙辰	寛政	8		西目百姓およそ300人一町田村に集結、地主、銀主宅を打ち壊し <b>天草郡百姓相続方仕法11か条公布(寛政の仕法)</b> 大庄屋へ帯刀御免・庄屋、町役人に苗字永代御免
1797	丁巳	寛政	9		八代城、落雷により焼失
1798	戊午	寛政	10		長崎出島で出火-商館の大半を焼失 牛深湊番所新設
1799	己未	寛政	11		御領村大火・芳證寺も焼ける
1800	庚申	寛政	12		志柿村で大火、100余軒焼失 被害者368人
1801	辛酉	享和	1		崎津村で疱瘡大流行・罹病者500余人
1802	壬戌	享和	2		
1803	癸亥	享和	3		
1804	甲子	文化	1		加藤民吉、高浜焼の秘法を探らん(?)として、東向寺天中和尚を頼り来島・上田宜珍の窯業所へ入所 御領村大島・銀主小山清四郎自ら開塾(正倫舎)
1805	乙丑	文化	2		<b>大江・崎津・今富村・高浜村で隠れキリシタン発覚</b> 総数5千余人に及ぶ(天草崩れ) 大庄屋見習いに帯刀、庄屋見習いに苗字御免
1806	丙寅	文化	3		隠れ信者5,000人を数えるも心得違いとして穏便にすまされる
1807	丁卯	文化	4		上田宜珍、加藤民吉に高浜焼秘法(錦手染付)を伝授する 高浜村で疱瘡大流行・200余人痢病、死亡70余人-宜珍、医師宮田賢育を頼み救護に当たらせる 郡中大庄屋代表が上府し、下免願を請願
1808	戊辰	文化	5		上田宜珍、潜伏切支丹の検挙に功ありとして、公儀より一代限り大庄屋格に列せられ、帯刀御免 京阪より、流人9人送られる フェートン号事件・天草でもその対策に大わらわ 郡中大庄屋、庄屋等7人、下免願のため再上府 その結果、向こう10年間年貢1150石の減免なる ただし、11年目に400石増(減免750石)、16年目に400石増(減免350石)、20年目に350石増(減免無し・元に復す)との沙汰あり
1809	己巳	文化	6	富岡、高浜、魚貫崎の烽火場伝達試験、失敗 志岐村で疱瘡流行・志岐村大庄屋平井為五郎隣村坂瀬川へ待避	

西暦		和暦		支配者	出来事
1810	庚午	文化	7	長崎代官兼帯支配	富岡町・志岐村で疱瘡流行。 伊能忠敬天草測量する-53日間・上田宜珍同行し、測量術を学ぶ
1811	辛未	文化	8		本村鈴木神社境内に顕彰碑が建てられる
1812	壬申	文化	9		一部百姓ら、世上不穩、小作米減少、庄屋減員につき越訴を説き、諸村を徘徊
1813	癸酉	文化	10		天草を長崎代官高木作右衛門が兼帯支配 大坂より流人10人来島
1814	甲戌	文化	11		気象不順、郡中村々困窮 高浜村大火。115軒焼失
1815	乙亥	文化	12		
1816	丙子	文化	13		魚貫村で大火・90余軒焼失
1817	丁丑	文化	14		上田宜珍、陶石販売をはじめ 天草郡百姓相続方仕法11か年延伸
1818	戊寅	文政	1		頼山陽、西遊の途次千々石湾で暴風雨にあう「泊天草灘」 全郡人口13万2205人 栖本村で吉田東壁開塾(学半舎) 伊能忠敬死去(74)地図完成の4年まで喪を秘す
1819	己卯	文政	2		
1820	庚辰	文政	3		赤崎村前田市右衛門、黒砂糖の製法、甘藷の苗を伝える
1821	辛巳	文政	4		出稼ぎの奨励 伊能忠敬の「大日本沿海輿地図」完成
1822	壬午	文政	5		長崎でコレラ流行 寛政の相続方仕法は、郡中百姓の困難が続いたため公儀に願い出て、特に20年間の延期
1823	癸未	文政	6		牛深大火・八幡宮より出火、類焼家屋180軒 上田宜珍、「天草島鏡」を完成。序文本居太平 鈴木社に神祇官長より鈴木明神の神宣状下附
1824	甲申	文政	7		
1825	乙酉	文政	8		
1826	丙戌	文政	9		寛政の相続方仕法年限満期 銀主勢力を増す 天草の人口、14万余人に達する
1827	丁亥	文政	10		
1828	戊子	文政	11	大地震・余震相次ぐ・新田土手を崩すなどの被害 未曾有の大暴風雨襲来、田畑、家屋、漁船などに大被害が及び死者33人	

西暦		和暦		支配者	出来事	
1829	己丑	文政	12	■ 日田郡代支配 三か身	上田宜珍死去(75歳) シーボルト事件 千束蔵々島にて石炭試掘始まる 凶作・ 人口、14万1,529人	
1830	庚寅	天保	1		大雨洪水等で大不作	
1831	辛卯	天保	2		大雨で大不作 人口14万1,588人	
1832	壬辰	天保	3		僧定舜、葵紋付の五条袈裟をあつらえたことで天草に流刑となる <b>祇園橋竣工</b> 頼山陽死去(53) 富岡町大火・1053軒焼失 新休村東向寺焼失 人口、14万3,806人 22,172軒	
1833	癸巳	天保	4		天保の大飢饉～39年 本戸・一町田・大江組の百姓集結騒ぎたつ	
1834	甲午	天保	5		崎津村、大矢野3ヶ村で疱瘡大流行	
1835	乙未	天保	6			
1836	丙申	天保	7		京都で餓死者5万6千人に及ぶ	
1837	丁酉	天保	8		大塩平八郎の乱 郡中困窮、わずかながら餓死者でる	
1838	戊戌	天保	9		大風・疱瘡流行 人口、14万2,782人・家総数、2万2,485軒。牛、1,475頭・馬9,153頭 富岡町人口、2,765人、総家数、509軒	
1839	己亥	天保	10		長崎代官兼帯支配	牛深村で疱瘡大流行
1840	庚子	天保	11			大坂より流人40人送られる
1841	辛丑	天保	12			天保の改革
1842	壬寅	天保	13			坂瀬川の医師本郷玄成が上津深江村で種痘(人痘)を始める 富岡志岐で疱瘡大流行 高島秋帆事件・石本平兵衛、勝之丞父子連座し捕縛される
1843	癸卯	天保	14		石本勝之丞牢死(36) 大矢野で百姓騒動	

西暦		和暦		支配者	出来事
1844	甲辰	弘化	1	西 国 郡 代 兼 帯 支 配	郡中に一揆、参加者数万 石本平兵衛歿(57)
1845	乙巳	弘化	2		御領大庄屋長岡興成、農民の窮状を老中に直訴し捕えられる
1846	丙午	弘化	3		弘化の仕法出る 志柿村永野九郎兵衛、宮地岳村中西亀勇太、牛深村八田織右衛門、相次いで開塾
1847	丁未	弘化	4		弘化の大一揆、1万5千余人加わる 日田代官竹尾清右衛門支配となる
1848	戊申	嘉永	1		上舜上人のための建碑 御領村私塾正倫社の後を引き継ぎ、柏木辰五郎、玉壺堂開塾 池田岩之丞兼任
1849	己酉	嘉永	2		弘化一揆の首謀者として永田隆三郎ら処刑さる
1850	庚戌	嘉永	3		
1851	辛亥	嘉永	4		上原典礼ら医師20人、牛痘始める
1852	壬子	嘉永	5		
1853	癸丑	嘉永	6		ペリー来航
1854	甲寅	安政	1		ペリー再来航、日米和親条約締結 肥後大地震
1855	乙卯	安政	2		
1856	丙辰	安政	3		志岐村で石炭採掘・出炭多し
1857	丁巳	安政	4		勝海舟、富岡へ来航 深海村大火
1858	戊午	安政	5		勝海舟、富岡へ再び来航 楠浦村中心にコレラ流行 楠浦村舟津で大火、人家110軒焼失 幕府海軍、天草水夫約20人募集するも希望者なし
1859	己未	安政	6		楠浦村庄屋宗像堅固、前潟新田を牛深村万屋助七より買い取る コレラ再流行
1860	庚申	万延	1		桜田門外の変 宗門改め続行さるも踏絵は廃止される 人口155,075人(男77,486人・女77,589人)、23,650軒- 旧本渡市域の家数3978軒、人高23670人 赤崎村庄屋北野織部、天草人夫1000人、沼船300艘をもって長崎大浦 外国人居留場約2万坪の海面埋地に成功

西暦	和暦		支配者	出来事
1861	辛酉	文久 1	長崎代官支配 西国郡代兼帯	南北戦争 楠浦村庄屋宗像堅固、前潟新田釜の迫鑿河工事に着手
1862	壬戌	文久 2		寺田屋事件・生麦事件 大風雨発生、家屋・田畑損壊甚だし、飢餓に陥るもの多し 1月長崎代官預け、6月新任命の西国郡代兼帯支配下 値賀紋水、本戸馬場村で私塾集義館開く(後の天草郡郷学) コレラ再三流行
1863	癸亥	文久 3		竹添荀園、町山口村で私塾誠文堂開く 薩英戦争起き、幕府は肥後藩に天草の警備を命じる(ただし、肥後藩常駐は1866年から) 郡中組々より薩摩への出稼ぎ人出発
1864	甲子	元治 1	日田郡代兼帯支配	楠浦村庄屋宗像堅固の前潟新田釜の迫鑿河工事完成 日田郡代窪田治部右衛門天草代官(兼任)となる。天領最後の代官御領村大島の小山秀の進、長崎の大浦天主堂(国宝)を建てる
1865	乙丑	慶応 1		
1866	丙寅	慶応 2		
1867	丁卯	慶応 3		大政奉還 長崎の漢詩人谷口藍田本戸馬場村明德寺内に文学塾開く 過激派浪士約20人、富岡陣屋を襲撃、公金1万両前後を奪う 窪田代官、農兵組織「制勝組」の編成に着手 天草郡中、総高24493石余なるも実勢はその2,3倍に及ぶものと推定さる 長崎奉行、浦上の潜伏キリシタン64人を捕える(浦上四番崩れ) 坂本龍馬(33)、中岡慎太郎(30)暗殺される
1868	戊辰	明治 1	長崎県	浦上潜伏キリシタン3,400人、流罪となる 戊辰戦争・五箇条の御誓文・江戸開城・東京遷都。 富岡県→天草県→長崎府天草郡となる(37村に統合)
1869	己巳	明治 2		版籍奉還 天草は長崎県の管轄に入る
1870	庚午	明治 3		天草も庄屋を廃止し、里正を置く
1871	辛未	明治 4	八代県	廃藩置県-長崎県の管轄から八代県に属す 天草から北海道へ移民
1872	壬申	明治 5		里正を廃止し戸長となる
1873	癸酉	明治 6	白川県	白川県に編入、村は大小区制になる 県出張所を富岡町から町山口村舟の尾へ移転 崎津で徴兵令反対の血税騒動起こる。キリスト教解禁 天草でも小学校が各村々に開校する(9年まで) キリスト教解禁
1874	甲戌	明治 7		
1875	乙亥	明治 8		

西暦	和暦		支配者	出来事
1876	丙子	明治 9		白川県を熊本県と改称-熊本県天草郡となる
1877	丁丑	明治 10		西南の役 熊本城炎上